ふるさとを愛し、地域や世界とつながる子

～探究心を持ち、自ら学ぶ子どもの育成を目指して～

大宮小学校は、本年１月、公立小学校では全国初の国際バカロレア（ＩＢ）初等教育プログラムの認定校となりました。ユニット学習を中心として、探究心を育む教育を実践しています。
また、英語教育を通じて世界のことを学ぶ機会を大切にしています。

ユニット学習

ユニット学習とは、ＩＢが定めた世界共通の６つのテーマについて学習する時間です。各学年が１年間で６つのテーマを学びます。テーマによっては、理科や社会などの内容が含まれるため、総合的な学習の時間を中心として、各教科の時間と合わせて学習します。

世界共通の６つのテーマ

- 私たちは誰なのか
- 私たちはどのように自分を表現するのか
- 私たちは自分たちをどのように組織しているのか
- 私たちはどのような場所と時代にいるのか
- 世界はどのような仕組みになっているのか
- この地球を共有するということ

1年生のユニット学習　テーマ『この地球を共有するということ』

１年生は、『生き物は互いにつながっている』というセントラルアイデア(基礎となる考え方)について、学んでいます。

モンシロチョウの卵を採集し、キャベツをあげながら、お世話をする中で、卵→幼虫→さなぎ→成虫と変化しながら成長するところを観察したり、昆虫の体のつくりについて調べたりします。

この探究では、生き物はつながりの中でいきていることや、生き物を大切にすることが私たちの責任であることなどを学んでいきます。

IBアンバサダーチーム

ＩＢアンバサダーチームとは、ＩＢ教育の良さを広めたり、『１０の学習者像』を意識しながらさまざまな活動を行ったりするなど、子どもたちの目線でＩＢ教育を進めるチームです。

５・６年生に呼びかけたところ２２名が立候補してくれました。活躍を楽しみにしています。

イマニュエル・プライマリースクールとの交流

オーストラリアのイマニュエル校と、各学年が定期的にリモートで交流をしています。

この日は、５年生が、自分たちの時間割を紹介しました。英語を通して世界とつながるよい機会となっています。

国際バカロレア候補校 香北中

現在、香北中学校は国際バカロレア候補校になっています。大宮小学校に続いての国際バカロレア認定校を目指し、概念的理解による学習プロセスを中心に探究学習を行っています。

自由に学習やミーティングを行える空間

玄関ホールにソファーを設置し、学習や休憩が自由にできる空間をつくっています。インクルージョン（個々の考え方や、能力をいかに活用するか）の観点からも生徒の多様性を理解し、活用していく予定です。

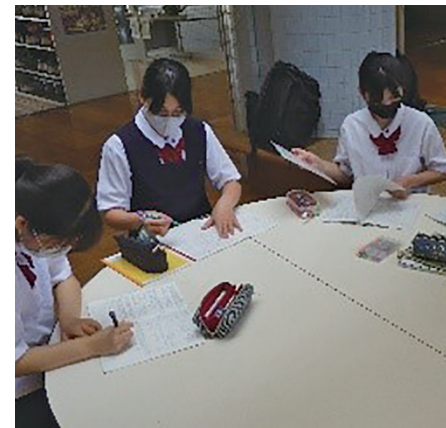
※地域の方からの寄付によるもので、今後２階、３階への設置も検討中。

自主学習Ｗｅｅｋ

香北中学校では、中間テストを廃止し、単元テストによる学力向上を目指しています。かつての中間テスト発表期間を、自主学習Ｗｅｅｋとして、学習タイムを設けており、この間は、部活動も停止しています。総括課題や単元の復習、予習など自ら計画を立て、学校または家での学習に主体的に取り組む時間を設けています。

ＭＹＰの導入

香北中学校は、ＭＹＰ（ミドル・イヤーズ・プログラム）を取り入れ、より平和な世界を築くことに貢献していきます。国際バカロレア教育は、プログラムを進めるにあたり、様々な要件があります。『10の学習者像』『ＡＴＬスキル』『概念理解』『ＳＡ』『ＩＤＵ』『コミュニティープロジェクト』など、あまり馴染みのない言葉がたくさん出てきます。しかし、生徒達は、国際バカロレア教育の道のりを着実に歩み、理解し、納得していっています

現在、認定校に向けて、それぞれが自主的に創造力を働かせ、これからの時代を生き抜く力や人を幸せにしていくことの大切さを、この国際バカロレア教育において学習しています。

元気いっぱい『びらふっこ』!!

豊かな自然に恵まれた美良布保育園では、散歩も日課のひとつです。赤ちゃん組から年長組まで、お天気がいい日は、園外に出かけます。

保育園の周りには、生き物もたくさんいます。子どもたちは、網やバケツを持って今年の春もさまざまな生き物を捕まえてきて、飼っています。

保育園の水槽の中は、あっという間に生き物でいっぱい・・おたまじゃくし、イモリ、エビ、カニなどなど。あるとき、年長組の男の子が「はようきて！５人がけんかしゆう！」というのであわてて行ってみると、水槽の中のカニのけんかでした。

ある日は、おたまじゃくしがかえるになる様子を楽しみに観察したり、赤ちゃん組の子どもたちも興味津々です。イモリが脱走すればすぐにまた戻したり、えさをあげたりと生き物のお世話をしながら、命の大切さや大事にする心を育んでいる『びらふっこ』です。